

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒が自信をもって社会に巣立つよう、本校の校訓である「堅忍不拔」「好学叡知」「和衷協同」の実践を通して、生涯にわたり、「能動的に学び続ける力」を育むとともに、高いコミュニケーション力に裏打ちされた豊かな「人間力」を持ち、リーダーシップを発揮して社会貢献できる生徒を育成する学校、地域に根付いた地域に愛される学校をめざす。

確かな学力の育成と第一志望の進路実現
豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成
生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と第一志望の進路実現

- (1) 主体的・対話的で深い学びの視点から、授業改善に取り組み、第一志望の進路実現へ向けた生徒の学力・教員の授業力向上を図る。
ア 生徒による授業評価や教員相互の授業見学・研究授業等を充実させ、授業内容・指導法の改善を図るとともに組織的に授業力の向上に取り組む。
イ 基礎学力の定着度を測定し、各教科で学習内容並びに指導法の改善に努める。全教科において基礎的事項の確実な定着を図る。
ウ 「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」を養う授業を行うとともに、アクティブラーニングを取り入れ、生徒の授業参加と活動量を増やし、学びを深める。
エ パソコン、タブレット、プロジェクター等のICTを活用した授業づくりなど、様々な授業の工夫を行い実践する。
授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(平成30年度84%)を上昇させ、2021年度には90%以上にする。
学校教育自己診断における生徒の授業満足度(平成30年度74%)を、2021年度には80%以上にする。
「学力生活実態調査」における1,2年生のGTZのBへの確実な定着をめざすとともに、将来的にはAに引き上げる。
- (2) 一人ひとりの学習状況に応じた学習指導を実践する。
ア 習熟度別少人数展開授業の充実を図る。
イ 進学講習、授業の補習等を組織的、計画的に実施する。
学校教育自己診断「学習支援の充実」2021年度90%以上をめざす。(平成30年度81%)
- (3) アクティブ専門コース(アクティブ音楽コース、アクティブスポーツコース)の充実。
ア 生徒の得意分野や興味・関心の深いエリアをさらに支援し、伸ばすことを目的としながら、自信や意欲を支える自尊感情や自己肯定感を高め、自己実現をめざす志を育み、学習面とは違った側面から学力の向上も図る。
イ 何事にも積極的に取り組む姿勢を育むとともに、リーダーシップ、忍耐力、集中力、協調性、社会性、奉仕の精神など、社会で必要とされる「生きる力」を育む。
- (4) 3年間を見据えたキャリア教育計画等の充実により、生徒のキャリア意識の向上を図り、100%の第一志望の進路の実現をめざす。
ア 学年・教科・分掌が連携し、希望する進路に応じた支援の充実を図ることを通して、将来の夢や目標に向かって学習に取り組む姿勢を養い、第一志望の進路実現に向けて最後まであきらめず頑張りぬく生徒を育てる。
イ 進路指導部、学年が協力して、LHRを計画的に実施し、キャリア教育を推進することを通して、将来について自ら考え、夢の実現に向けて自ら行動する生徒を育てる。
ウ 学力の客観的評価、学力生活実態調査等を継続的に使用し、その結果を分析し、進路指導等に生かす。
エ 進路の情報提供の充実を図る。(進路コーナーの充実。HPへのアップ、提供機会の増加。)
第一志望の進路実現率を2021年度85%以上にする。(平成30年度65%)
大学入試センター試験 受験率を平成31年度から3年間で60%以上にする。(平成30年度47.7%)
学校教育自己診断 「1,2年時からの進路を意識した学習のスタート」 2021年度50%以上をめざす。(平成30年度40%)
- (5) 自学自習の習慣の確立と学習と学校行事や部活動の両立。
ア 授業外校内学習指導の実施により、自律学習を支援し、学習意欲の向上、家庭学習の充実を図り、学力向上をめざす。
イ 生徒の学習に対する初期指導として、入学当初に学習オリエンテーションを実施する。
ウ 学習と学校行事や部活動との両立を図る。
エ 自習室や図書室の利用を促進する。
学校教育自己診断 「家庭学習を十分行っている」 2021年度70%以上をめざす。(平成30年度61%)
部活動の加入率 90%をめざす。(平成30年度88%)
図書室の貸出冊数を2021年度に1500冊以上にする。(平成30年度1274冊)
2021年度に国公立大学の合格者数を10名、関関同立の合格者数を100名以上に伸ばす。(平成30年度国公立4名、関関同立32名)

2 豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成

- (1) HR活動、学校行事、生徒会活動、部活動等で生徒の自主性を育成し、自分を鍛え、人とのつながりの大切さを学ぶとともに集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。
ア 体育祭、文化祭、修学旅行、遠足、芸術鑑賞等の学校行事の充実を図る。
学校教育自己診断 「行事が生徒中心に組織的・効率的に運用」 2021年度90%以上(平成30年度89%)
- (2) 生徒の自主性、主体性を重視した生徒会、CM会議(部活動のキャプテン、マネージャー会議)、保健委員会、図書委員会等の活動を充実させ、生徒の可能性を最大限に伸ばす教育を実践し、生徒の自己有用感を醸成する。
ア 生徒会等を中心とした学校行事、地域連携、ボランティア活動、あいさつ運動等の充実を図る。
学校教育自己診断 「生徒会活動が活発」 2021年度90%以上(H30年度86%)
- (3) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努めるとともに、挨拶や通学等のマナーを向上させる。
ア 基本的な生活習慣の確立を図るため、欠席、遅刻についての指導を強化するとともに挨拶する態度を確実に身に付けさせる。
イ 生徒の安全確保と地域に信頼される学校づくりの一環として、自転車通学を中心に通学マナーの向上に取り組む。
学校教育自己診断 「基本的な生活習慣の確立に力を入れている」 2021年度90%以上(平成30年度87%)
- (4) 人権教育、国際理解教育をすすめる、豊かな人間関係をつくる力を育成する。
(5) 海外からの生徒の受入れ、海外への生徒派遣等、グローバル人材の育成に向けた取組みを、PT「国際交流委員会」を中心に実施する。
(6) 保護者との連携を図りながら、安全で安心な学校づくりを推進する。特に生徒理解、教育相談の取組みをさらに組織的に発展させるとともに、個々の生徒への支援体制を一層充実させる。
ア 家庭連携、中高連携をさらに進め、課題の大きな生徒の指導、支援の方針を担任会、保健部会、教育相談委員会、就学支援委員会などで組織的に検討し、指導の充実を図る。
イ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援の充実を図る。
学校教育自己診断 「家庭とのきめ細かい意思疎通と相談について」 2021年度90%以上(平成30年度74%)
- (7) 開かれた学校づくりにより保護者や同窓会、地域との連携を密にし、さらなる生徒の育成を図る。
ア 地域イベント等において生徒の出番を多く設定することにより、地域コミュニティの中での「育ち」を支援する。
イ 地元中学校運動部交流大会「香里カップ」や地域文化交流イベント「香里フェス」を開催する。
ウ 本校は今年創立40周年を迎えることから、学校、保護者、同窓会の連携を強化し、11月に行う創立40周年記念式典を含めた記念事業を実行する。

3 生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上

- (1) ICTの活用等、仕事の効率化、危機管理対応等の充実をめざし、校内組織の見直しと体制づくりを行う。必要に応じてプロジェクトチーム等の新設及び改廃を行い、円滑な組織運営を行う。また、本校のめざす学校像の実現に向けて一丸となって課題に取り組む教職員集団づくりをさらに推進する。
(2) ワ・ザ・ジョブ・トレーニング(OJT)が盛んに行われるような職場環境づくりを行うとともに、香里会(新任を中心とした研修チーム)を活用した経験の少ない教員等の育成を図る。
(3) 校務処理システムのスムーズな導入等ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減するとともに、教職員のICT活用能力を高める。
(4) 広報活動の充実を図り、本校教育の素晴らしさを積極的にアピールする。
ア 文化広報部が中心となって中学校や地域住民に対する広報活動をさらに充実させる。
イ ホームページ、香里丘メールサービス配信等で情報提供に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <p>生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を集中して受けられていると感じている生徒（肯定回答 87%）が、近年 2 年間で 5 ポイント上昇しており、落ち着いて学習できる環境が整っていると考えられる。また教員も同様に捉えており（肯定回答 81% 84%）今後も継続すべく取り組んでいかなければいけない。 ・その一方で予習・復習等家庭学習への取り組みや主体的に勉強に励む実行力という点においては肯定回答率が著しく低い。ただ、受験を控えている 3 年生においては肯定回答率も大きく上がる（最も低い学年に比べ 20 ポイント以上高い）が、それでも看過できるものではなく、早い段階からの意識付けが涵養である。 <p>保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の通り、「子どもは家庭学習に積極的に取り組んでいる」との問いに対し肯定回答 55%と、生徒と同様の傾向を示し、家庭学習の習慣が身につけていないことがうかがえる。 <p>教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業力や教科指導力の向上について日常的に話し合いがもたれている」（肯定回答 83% 73%）「教員間で授業方法等について研究する機会を設けている」（86% 69%）と大きく下がっている。これは近年取り組んできた互見授業などが定着、また「香里会」などの取り組みも新鮮さがなくなったせいもあるが、結果を踏まえ、再度意識醸成に取り組む。 ・「授業アンケートの結果を自らの授業改善に活用している」（84%）など、授業力向上への意欲は高い。その一方で「学習意欲の高い生徒の期待に応える取り組みが行われている」（69%）「学習到達度の低い生徒に対する指導や取り組みが全体的に行われている」（61%）など、個に応じた指導という観点ではまだまだ十分とは言えない。 <p>【進路指導】</p> <p>生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進路実現のための支援が充実している」、「将来の進路について自ら考えることができるようになりつつある」の肯定回答（80%以上）が、近年 2 年間で 4 ～ 5 ポイント上昇しており、1 年時の大学見学をはじめとする進路指導から大学入試改革直前で不安を抱える生徒に対する適切な指導の表れが数値に反映していると考ええる。 <p>保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒の進路実現に向けた適切な指導を行っている」、「進路に関して家庭への連絡や適切な情報提供を行っている」の肯定回答がいずれも昨年に引き続き 80%以上を維持。 <p>【生徒指導】</p> <p>生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ルールやマナーをきちんと守っている」の肯定回答は（88% 92%）で、ほとんどの生徒はマナーをわきまえた行動がとれていると考える。一方「学校の生徒指導の方針は納得できる」では、例年肯定回答が低いが、学年によつての差が（1 年 71%、2 年 55%、3 年 69%）大きく出た。再度各学年による指導状況の確認が必要。なお、保護者においては一定の理解（肯定回答 81%）をいただいていると考える。 <p>教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている」（81% 78%）「生徒間のトラブル等について迅速かつ組織的な対応ができていく」（90% 85%）「教育相談体制が整備されており、組織的な対応ができていく」（85 73%）など、生徒指導でも学習指導同様数値が下がっており、体制の検証とともに意識醸成に取り組む。 <p>【学校運営】</p> <p>保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地震や台風など災害時の対応について子どもや保護者に知らされている」が（67% 80%）と上昇しているが、これは昨年、一昨年に発生した大地震や台風のような大きな自然災害がなかったからと考える。現在緊急時の安否確認の方法等も検討しており、今後も災害発生時の迅速な判断と情報発信に努めなければならない。 <p>教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全 44 項目中 33 項目において昨年より数値が下がっており、その中 7 項目で 10 ポイント以上の下落があった。半面 10 ポイント以上の上昇は見られない。ただ、一昨年から昨年にかけては同 44 項目において 33 項目（同%含む）において数値が上がっており、その反動や近年の教員の異動による前任校などとの比較によるところも考えられるが、面談などを通じて教員の考えを把握する。 	<p>【第 1 回】令和元年 7 月 1 日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年学校には新任教諭が着任、若手教員が増えていく現状を鑑み、初任者を中心に学校業務について、様々な観点による教育が必要。 ・昨年度の私立大学は合格者絞り込みの影響で、これまで第 1 志望としていた大学からランクを下げての受験が散見されている。特に中堅大学から一様に玉突き的に難易度が上昇していると伺っている。また新たな入試制度に向けての対応も必要。 ・今年度より始まった「総合的な探究の時間」に関し、時代が大きく変化していく中で、探究していく力は大切である。このような探究を積み重ねることで、危機や想定外の事態に立ち向かう力、身を守る力を身に付けてほしい。 ・吹奏楽部による演奏会の招待など学校からの働き掛けもあり、地域との結びつきが強化されていると感じる。また今年度より地域協議会「みまもり隊」による通学指導をコミュニティ全体で開始。 <p>【第 2 回】令和元年 11 月 13 日開催</p> <p>創立 40 周年記念式典・演奏会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11 月 1 日に行われた記念式典・演奏会は大変すばらしく感動した。式典では挨拶を行った生徒代表者、演奏会ではプロの演奏家と一緒に合奏をした吹奏楽部の生徒と、生徒が活躍するよい行事だった。 <p>学校経営計画進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室の活性化の活動により、入館者前年比 26%UP、図書貸し出し数前年比 33%UP と大幅に上がっているが、一部の読書好き生徒が総数を押し上げているのか、行っている取り組みの結果なのかを検証しつつ引き続き取り組んでほしい。 ・花壇（生徒会を中心に世話をしている）がよく手入れがされており素晴らしい。 <p>第 1 回授業アンケートの結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートによる肯定的数値が高いことはよいことかもしれないが、肯定的数値が高いと問題点が浮かんでいく改善につながらない。アンケートが活用できるのか疑問が残る。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の年齢が 20 代、50 代の教員だけではなく、40 代の教員も一定数いるため構成バランスが良い。 <p>【第 3 回】令和 2 年 2 月 7 日開催</p> <p>○授業見学について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語表現の授業では、NET によるインタビューテストを見学し、一人ひとりを伸ばす教育を行っている様子を見せていただき、数学の授業では、ICT 機器を活用した授業を見せていただいた。 <p>○図書館活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の活性化には学年の取り組み（読書マラソン）なども功を奏していると考えられる。 <p>○探究、発表活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブスポーツコースの発表など単年度で終わらせず継続しているのはとても良い。また、外部の人に向けて発表するために、協議会としてできることがあれば協力したい。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート等各数値は分析の仕方を変えたらマイナスもプラスととらえることもできる。マイナスにとらわれすぎないように。 ・目標の小項目は多すぎたので、目標を絞って集中して取り組むことはよいことである。（令和 2 年度の学校経営計画）

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成と第一志望の進路実現</p>	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びの視点から、授業改善に取り組み、第一志望の進路実現へ向けた生徒の学力・教員の授業力向上を図る。 ア、公開授業、授業アンケート、教員研修等を活用した授業改善の推進と授業力の向上</p>	<p>(1) ア・各教科で研究授業、研究協議、互見授業等をさらに活発に実施する。公開授業週間を6月と11月に実施し、その時期を中心に、年間2回互見授業を行い、感想シートを授業担当者及び首席に提出し、授業の質の向上につなげる。 ・授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づけ、授業アンケート結果を各教員及び教科で効果的に活用し、授業改善を推進する。 ・観点別評価を推進し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて実践研究を行う。また、大学入試制度改革や学習指導要領の改訂に対応するため、教員研修を充実し、授業改善、授業力向上の取組みの活性化を図るとともに、新制度入試への対応を検討する組織を立ち上げ、対応策を検討する。さらに英語の4技能をよりよく伸ばすために英語の授業改善を推進する。同時に、教育課程についても検討する。 イ・全教科において基礎的事項の確かな定着を図るために、生徒の基礎学力の定着度を測定し、各教科で学習内容や指導方法の改善、検討を行う。また、「学力生活実態調査」をより有効に活用し、国・数・英の基礎学力の定着を図る。 ウ・ICT機器や視聴覚機器を積極的に活用した授業づくりを組織的に学校全体で推進し、生徒の授業への集中度を高め、より効果的な授業を行う。また、機器不足のために授業で活用したくても活用できないことのないように、「学校運営推進費」の獲得をめざすなど、設備等の充実に努める。</p>	<p>(1) ア・各教科で研究授業・研究協議を年間3回以上実施できたか。学校教育自己診断における「互見授業」の授業改善への活用率78%以上(平成30年度76%) ・学校教育自己診断における「授業へ集中して取り組む」率85%以上(平成30年度84%) ・アクティブラーニングを取り入れた研究授業を各教科1回以上実施できたか。 ・アクティブラーニングや大学入試制度改革、学習指導要領の改訂等授業改善、授業力向上に関する研修が実施できたか。 イ・1年、2年の第2回「学力生活実態調査」のGTZ「B」を維持(平成30年度:1年B2、2年B3) ウ・授業でICTを活用した教員70%以上(平成30年度65%) ・学校教育自己診断における「授業の工夫」70%以上を維持(平成30年度71%) アウ・「興味関心、知識技能」に係る第2回授業アンケート満足度85%以上(平成30年度:83%) ・学校教育自己診断 授業力向上関連項目平均75%以上を維持(平成30年度75%) アウ・国公立大学の合格者を5名以上。(平成30年4名)関関同立の合格者数を10%増。(平成30年度36名)本校の教育システム項目の学校教育自己診断肯定率85%以上。(平成30年度84%)</p>	<p>(1) ア・各教科研究授業・協議を年3回実施() ・「互見授業」の活用率70%() *経験の浅い教員には有効であった ・「授業へ集中して取り組む」87%() ・「アクティブラーニング」を取り入れた研究授業を各教科1回以上実施() ・入試制度改革に関する研修を5,9,2月に実施() イ ・1,2年の第2回「学力生活実態調査」のGTZ()1年「B3」、2年「B3」 ウ ・授業でICTを活用した教員65%() ・「授業の工夫」75%() アウ「興味関心、知識技能」に係る第2回授業アンケート満足度82%() ・「授業力向上関連項目」平均78%() アウ 国公立大学の合格者数3名() 関関同立の合格者数23名() ・「本校教育システム」肯定率85%()</p>
	<p>イ、基礎学力の定着</p>	<p>(2) ア・進学講習、授業の補習等を組織的、計画的に実施し、学力の高い生徒から学習到達度の低い生徒に対し、学び続ける生徒の育成を図りながら、学力の定着をめざす。模擬試験や各種検定試験に向けた指導を充実し、受験を促進する。</p>	<p>(2) ア・学校教育自己診断 講習・補習65%以上を維持(平成30年度各67%) 「学習支援の充実」83%以上(平成30年度81%)</p>	<p>(2) ア 講習・補習69%() ・「学習支援の充実」84%()</p>
	<p>ウ、ICTを活用した授業づくりの推進</p>	<p>(3) ア・アクティブ専門コースがより生徒の期待に応えるものとなるように、授業内容等のさらなる充実を図る。高大連携等を推進し、教育活動の充実、深化を図る。また、そのための施設、設備の充実を図る。</p>	<p>(3) ア・アクティブ専門コースの次年度選択人数50名以上維持。(平成31年度66名) アクティブ専門コースの授業内容充実の取り組み状況。</p>	<p>(3) ア・アクティブ専門コース次年度選択者77名() ・外部講師の講義・講習を3回実施 ・音楽を通じて地域の人たちに貢献 高齢者施設、地域文化祭での演奏等</p>
	<p>イ、適切な進路情報の提供</p>	<p>(4) ア・「学力生活実態調査」の活用、大学見学会の実施等三年間のキャリア教育計画と進路指導体制をさらに充実させ、キャリア意識の向上を図る。また、eポートフォリオ導入を検討する。 イ・進路コーナーの充実、HPへ進路情報のアップ、情報提供機会の増加など進路の情報提供の充実を図る。</p>	<p>(4) ア・学校教育自己診断で進路に関わる項目の肯定率の平均80%以上を維持(平成30年度80%) ・進路希望未定者0%の維持。 イ・学校教育自己診断で進路情報提供項目肯定率80%以上。(平成30年度78%)「進路についての家庭への連絡や適切な情報提供」の肯定回答を85%以上。(平成30年度83%) アイ・生徒アンケートにより第一志望の進路実現70%以上(平成30年度65%) ・学校教育自己診断「1,2年時からの進路を意識した学習のスタート」40%以上を維持(平成30年度40%)</p>	<p>(4) ア・「進路関連項目」肯定率82%() ・進路希望未定者0%() イ・「進路情報提供」肯定率77%() ・「進路についての家庭連絡・情報提供」の肯定率81%() アイ・「第一志望の進路実現」75%() ・「1,2年時から進路を意識した学習のスタート」42%()</p>
	<p>イ、学習と学校行事や部活動の両立</p>	<p>(5) ア・Web予備校の活用を推進し、自学自習の取組みの充実を図る。また、授業外校内学習指導をさらに活発に行い、自立学習の充実を図る。 ・入学当初に実施する学習オリエンテーションをさらに充実させる。また、自学自習の習慣化に向けた新たな取組みについて検討する。 ・学校図書室のさらなる活用などを通じて読書習慣や自習習慣の定着を図る。 ・「まなびワンポイントコーナー」をさらに充実させるなど授業以外の場面における生徒の学習意欲を喚起するような取組みや環境づくりについて検討し、実行する。 イ・アクティブ専門コースを中心とする部活動内での学習支援の充実。行事や部活動の終了時刻の徹底により、学習との切り替えを図る。</p>	<p>(5) ア・参加者70名以上を維持。(平成30年度71名) ・アンケートで肯定平均95%以上。(平成30年度99%) ・家庭学習の充実。学校教育自己診断65%以上。(平成30年度61%) ・図書室の貸出冊数5%増(平成30年度1274冊) イ・学習支援の取組み状況と終了時刻の厳守。</p>	<p>(5) ア・WEB予備校参加者75名() ・「学習リエンション」肯定率99%() ・「家庭学習の充実」64%() ・図書館の活性化() 貸出数1175冊(H30 1069冊 9%) 入館者数5332人(H30 4139人 29%) *学校運営協議会委員に図書館を見学していただいた イ・約半数のクラブで部学習を実施。クラブ総会で報告、部学習を奨励() ・終了時刻の厳守()</p>

府立香里丘高等学校

<p>2 豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成</p>	<p>(1)生徒の自主性を育成し、自分を鍛え、人とのつながりの大切さを学ぶ。 ア、生徒の自主性を育むHRの充実 イ、学校行事の充実 ウ、部活動の奨励</p> <p>(2)生徒会活動の充実 ア、自主性、主体性を重視した生徒会活動の奨励</p> <p>(3)規律ある学校生活 ア、通学マナーの向上 イ、遅刻指導の強化と挨拶の奨励 ウ、校内美化の推進</p> <p>(4)不和や対立を乗り越える豊かな人間関係をつくる力の育成 ア、人権教育・国際理解教育のさらなる充実</p> <p>(5)グローバル人材の育成 ア、海外の生徒との交流</p> <p>(6)安全で安心な学校づくりの推進 ア、PTA 活動の推進と家庭との協力体制の充実 イ、個々の生徒への支援体制の充実 ウ、教育相談の充実</p> <p>(7)開かれた学校づくり ア、地域の学校や団体との連携・交流 イ、創立40周年事業の実施</p>	<p>(1) ア・生徒の自主性を尊重し、「香里を考えるHR」の充実を図り、学校生活改善の提言をさせ、帰属意識を高める。 イ・体育祭・文化祭の生徒の達成感をさらに向上する。 ウ・新入生に対し、部活動入部を強く勧める。中学校との合同練習、地域への貢献活動、クラブ員による出身中学校訪問等を引き続き組織的に実施する。</p> <p>(2) ア・生徒の自主性、主体性を重視した生徒会活動を奨励し、中学生対象の授業・部活動体験での発表、新入生歓迎行事の充実、CM会議、クラブ総会の充実、保健委員会、図書委員会の活動の活性化など、生徒会等を中心とした学校行事、地域連携、ボランティア活動の充実を図る。また、校門前花壇の管理を1年間通して行う。</p> <p>(3) ア・通学マナーの指導及び交通安全指導をさらに強める。特に、生徒が被害者、加害者にならないように自転車のマナー指導を強化する。 イ・基本的生活習慣の定着に努め、遅刻者数の減少を図る。日々の学校生活の中で教員側から挨拶をすることを通して、自然に挨拶をする雰囲気を醸成する。 ウ・生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。</p> <p>(4) ア・LHR、「総合的な探求の時間」を中心として、効果的な人権教育・国際理解教育を展開するとともに、人権教育・国際理解教育のさらなる内容の充実を図る。</p> <p>(5) ア・海外の生徒等との交流、海外への生徒派遣を計画的に行うために「国際交流委員会」を新設する。</p> <p>(6) ア・PTAと共催で、人権研修や登校指導等を実施し、保護者と連携して安全で安心な学校づくりを推進する。登校指導については、地域との連携を模索する。 イ・障がい等の事情により、学校生活を送るにあたって困難を伴う生徒について、就学支援委員会で生徒支援カード等により収集した情報を共有し、個別の支援計画など、保護者と連携しながら作成、充実した指導をめざす。 ウ・教育相談体制等をさらに充実し、スクールカウンセラーと学年との連携を深める。生徒への声掛けをより充実させる。</p> <p>(7) ア・地元中学校運動部交流大会「香里カップ」や地域文化交流イベント「香里フェス」の開催数を増やす。 ・地域の学校や団体との連携・交流をさらに充実させる。 イ・実行委員会を中心に、学校・保護者・同窓会の連携を強化して、創立40周年事業を実行する。</p>	<p>(1) ア・生徒からの学校生活改善等提言内容によって評価する。 イ・満足度90%以上。(平成30年度88%) ウ・部活動加入率1年生90%以上を維持。(平成30年度90%) ・出身中学校訪問3部以上。中学校との合同練習10回以上。</p> <p>(2) ア・CM会議年間25回以上。クラブ総会の年3回の継続と内容の充実。 ・保健委員会による、学校保健委員会での活動報告。 ・図書委員会による図書館活動状況。 ・年間を通じた花壇の管理状況。 ・学校教育自己診断「生徒会活動が活発」肯定率86%以上を維持。(平成30年度86%)</p> <p>(3) ア・毎日登校および下校時の自転車指導の実施。 イ・遅刻者数前年度比減少(平成30年度721名) ・挨拶運動の実施と日常の教職員からの挨拶を含む声かけを継続的に実施できたか。 ウ・校内美化についての学校教育自己診断の肯定率80%以上(平成30年度76%)</p> <p>(4) ア・人権を学ぶ機会 学校教育自己診断80%以上。(平成30年度78%)</p> <p>(5) ア・海外生徒等との交流2回を維持。(平成30年度2回) ・国際交流委員会を設置し、生徒海外派遣を検討する。(新規)</p> <p>(6) ア・PTAによる登校指導を5回以上実施。(平成30年度5回) ・人権を学ぶ機会 学校教育自己診断 保護者85%以上を維持。(平成30年度85%) イ・委員会を年3回以上開催し、全体で情報を共有し生徒の支援をする。 ウ・学校教育自己診断(悩み相談)60%以上を維持。(平成30年度61%)</p> <p>(7) ア・「香里カップ」「香里フェス」を合わせて5部以上の実施。(平成30年度4部) ・連携・交流の状況。 イ・記念事業を実行する。</p>	<p>(1) ア・制服・マナーについて考え、生徒たちの意見をまとめ生徒総会で回答() イ・生徒満足度91%() ウ・1年生89%() ・中学校訪問9部() 合同練習10回()</p> <p>(2) ア・CM会議19回、クラブ総会3回() ・保健委員会 防災に関する発表() ・図書委員会() 全体の取組み:POP作成(大阪府立図書館POP広場に応募) 班活動:館外掲示班(啓発ポスター制作)館内展示班(POPを利用した図書案内)館内装飾(季節感あふれる館内装飾)年間10回の図書だより発行 学年の取組み:読書マラソン(1・2年) ・花壇:生徒会が休暇中も水やり() ・生徒会活動が活発84%()</p> <p>(3) ア・毎日実施() イ・遅刻者636名() ・挨拶運動ののびりを立て、教員、生徒会で実施() ウ・校内美化 保護者79%()</p> <p>(4) ア・人権を学ぶ機会85%() SNSの利用(1年生)、国際理解(2年生)、働くことの意味(3年生)</p> <p>(5) ア・8月香港()、3月ニュージーランド(キャンセル) ・国際交流委員会主催 第1回オーストラリア研修3月末(キャンセル) *新型コロナウイルス感染拡大の影響でキャンセル</p> <p>(6) ア・PTA登校指導6回() ・人権を学ぶ機会 保護者83%() イ・就学支援委員会2回() ウ・悩み相談66%()</p> <p>(7) ア・香里フェス:吹奏楽 香里カップ:ソフトボール、サッカー、男子硬式テニス、女子バスケ() イ・創立40周年記念事業 同窓会・PTA・学校が連携しザ・シンフォニーホールで盛大に行った。本校吹奏楽部との共演、本校生による司会も好評であった。 生徒満足度88%保護者満足度90%()</p>
-------------------------------	---	---	---	---

府立香里丘高等学校

<p>3 生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上</p>	<p>(1) 校内組織の見直しと体制づくり ア、危機管理対応等の充実。 イ、円滑な組織運営と一丸となって課題に取り組む教職員集団づくり</p> <p>(2) 経験の少ない教員等の育成。</p> <p>(3) ICTの有効活用。 ア、ICTを活用した校務の効率化</p> <p>(4) 広報活動の充実。 ア、効果的で適切な情報発信</p>	<p>(1) ア・地震・火災対応・AEDの使用について教職員・生徒への周知等を工夫する。 イ・プロジェクト委員会が中心となり、必要に応じてPTや委員会を新設及び改廃し、教職員の意見を大切にしながら、円滑な組織運営を行う。その際、原則、有志参加者も募るなど教職員の参画意識の向上を図る。</p> <p>(2) ア・新任から2年目までの教員対象の勉強会「香里会」を実施する。自信を持って授業や生徒指導等に当たることができるよう進める。研究授業を実施するとともに、危機管理を含めた保護者対応、授業、部活動指導等について先輩教員の指導に学ぶ。</p> <p>(3) ア・情報処理委員会を中心に校務処理システム等ICTの活用をさらに推進し、校務の効率化を図る。ICTを活用して教材等の共有化や成績処理など、日常業務の軽減を図り、教材研究をする時間を確保する。</p> <p>(4) ア・中学生学校見学会、HPの更新、中学校訪問など文化広報部が中心となって中学校や地域住民に対する効果的で適切な広報活動を充実させる。 ・メール配信登録者に年間通じて情報提供に努め、学校の情報が保護者によりよく伝わるようにすることによって、家庭との協力体制のさらなる充実を図る。</p>	<p>(1) ア・防災訓練2回実施(火災・地震) 生徒、教職員対象 AED講習会の充実。学校教育自己診断80%以上を維持。(平成30年度80%) イ・PTや委員会の新設改廃状況。円滑な組織運営。学校教育自己診断(学校運営)平均70%以上。(平成30年度69%)</p> <p>(2) ア・香里会を年間5回以上実施。研究授業の実施状況(初任者:年2回以上、2年目:年1回以上) アンケート肯定平均85%以上。(平成30年度82%)</p> <p>(3) ア・全教科でICTを活用した教材共有システムを開発し、その活用状況。成績処理のICT化等、業務軽減の状況。</p> <p>(4) ア・学校見学会年間3回実施、参加者1200人以上(平成30年度3回1145人) HPを年50回以上更新する(平成30年度年45回) 中学校訪問年2回実施(平成30年度年2回) ・メール配信登録者、90%以上。(平成30年度:登録者88%)</p> <p>(1) ア・防災訓練2回実施(火災想定5月、地震想定10月)。AED講習会2回実施(生徒対象、教職員対象) ・緊急時の避難方法 84%() イ・学校運営 64%()</p> <p>(2) ア・初任+常勤講師対象週1回実施 香里会20回、研究授業12回() ・社会人のマナー、授業、試験監督、成績、現時点の疑問点など。学期ごとに振り返りを行い、次学期に臨んだ。研究授業2回、授業についての研究。 ・アンケート肯定率84%()</p> <p>(3) ア・公務処理システムのスムーズな運用により成績処理効率化した()</p> <p>(4) ア・校内実施説明会 計982名() 第1回学校見学会 339名 オープンスクール 512名 第2回学校見学会 131名 ・オープンスクール:ウェブ申込、食堂体験を導入 ・中学校訪問2回() 1回目 57校 2回目 49校 2回実施することにより、中学校との連携をより密にできている。 ・外部説明会 全体説明会3回 ブース説明会4回 ・メール配信登録者94%()</p>
---------------------------------	--	--	---